

2026 年 10 月 18 日

2026 年世界宣教の日にあたり

カトリック新潟教区
司教 パウロ成井大介

主の平和！

新潟教区の皆さん、今日、私たちは世界宣教の日を記念しています。世界宣教の日にはピオ 11 世教皇により、1926 年に制定されました。今年は、教会が初めて世界宣教の日を祝ってから 100 周年の記念すべき年です。

シノドス最終文書 14 項は次のように宣言しています。「教会は、決定的な歴史の出来事、イエスの復活を、世にあかしするために存在しています。」そうです、教会は、宣教のために存在しているのです。

イエスはヨルダン川で洗礼を受けた後、「神の国は近づいた。回心して福音を信じなさい」と宣言し、宣教活動を始められました。神が私たちの救いのために来てくださったという良き知らせ、福音を告げ知らせるこの宣教活動に、2000 年の間多くの人々が少しずつ参加し、宣教師たちを通して新潟教区の私たちにも伝えられました。私たちもまた、イエスの宣教に参加し、福音を伝えるよう招かれています。

宣教は、何よりもまず、わたしたち一人ひとりの生き方によって行われます。神の愛が表れる生き方です。たとえ聖書の言葉を人に語っても、語る人から神の愛を感じられなければ誰も信じないでしょう。教会でも、日常生活でも、私たち一人ひとりが、神の愛を差し出すような生き方をすることが最も大切です。

宣教は、神のことを教えて、洗礼を授け、信者を増やすために行うものではありません。自分が受けた洗礼という最高の恵みを、自分のところで留めるのではなく、分かち合うためです。いただいた恵みを分かち合うという、とても自然な行動、それが宣教です。自分自身が、洗礼の素晴らしさ、神の愛の素晴らしさをしっかりと受け止めなければ、その恵み深さを理解し、分かち合うことができません。だからこそわたしたちは神について学び、信仰生活を深めようとするのです。

今日、私たちは改めて、自分が受けた恵みの素晴らしさを受け止めましょう。自分のうちに、洗礼のいのちの水の泉が溢れている喜びを噛み締めましょう。そしてその喜びを、ともに、人々にわかちあっていきましょう。